

## 平泉寺から白山越前禅定道を歩く

(平泉寺～市ノ瀬)

4期 佐藤 秀紀

越前禅定道は往時越前の人たちが勝山の平泉寺を出発して報恩寺山を登り、小原峠を越え、市ノ瀬に入り、そこから旧白山温泉を経て六万山の尾根を登り、現在の観光新道を通って室堂（越前室）に至った長いルートである。

平泉寺は越前禅定道の拠点（馬場）で正式には平泉寺白山神社。白山開山の越前の僧泰澄によって717年（白山開山と同年）に開かれたといわれる。ちなみに白山三馬場は他に加賀禅定道は白山比咩神社、美濃禅定道は岐阜県白鳥町の長滝白山神社であり、おおむね平安時代前記（800～900年）にはこれらの三禅定道・三馬場は成立していたといわれる。なお、禅定とは精神をある対象に集中させ、宗教的な精神状態に入ること。また、その精神状態と仏教では言われているそうだが、修験道では聖なる山の山頂を指し、それに向かう道を禅定道となした。また、山頂を登る修行そのものを指すともいわれるようだ。古来、日本では立派な山には神が宿るとされ、また死者の魂は山に帰るとされた。

三馬場の中でも最も強く勢力をもっていたのが平泉寺である。室町時代後半には僧坊6千の大勢力であったといわれる。越前・加賀の白山を巡る権利争いの決着として、江戸時代には白山山頂を含む山麓十八ヶ村は幕府直轄天領となり、白山

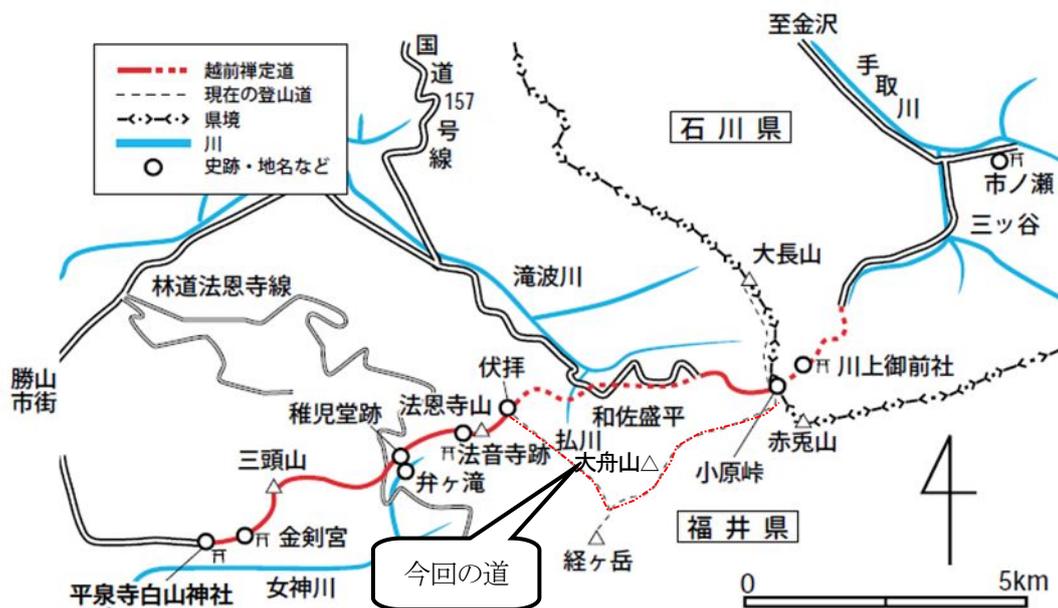
そのものは平泉寺に属した。しかし、明治維新の神仏分離、国家神道政策に基づく神社の社格制定により白山比咩神社が白山の支配を得たようである。

開山1300年のこともあり、8月に市ノ瀬から六万山経由で越前禅定道を白山頂上まで歩いたので、前半部を歩きたく、経験豊富な何時もの山登りのリーダーYさんに声を掛けて実現した。

本来の越前禅定道は平泉寺から法恩寺山に登り、その先の伏拝から谷川沿いに和佐盛平に下り小原峠を越え、三谷（密谷）を経て市ノ瀬に出るルートである。しかし、和佐盛平に下る道が現在は廃道となっているため降りられない。本当は廃道をヤブ漕ぎをしてでも下りて見たかったのだが、打診したYさんは経ヶ岳への分岐から大舟山経由で赤兎山登山路に合流して小原峠に至る回り道なら歩いたことがあるから案内しようといわれたのでヤブ漕ぎを断念したのである。

9月23日、4時に白山比咩神社に同行4人が集合、二台の車で出発。まず市ノ瀬の三谷林道終点登山口に車を置き、残りの車で平泉寺まで行く。

6:30 平泉寺出発。大きな杉木立の中の石畳の長い参道は歴史を感じさせ厳粛な気持ちを起こさせる。また、滅びしものあわれも感じさせる。拝殿周辺の一面の緑のコケは見事で静寂感にあふれる。拝殿右横の道を辿り、白山禅定道の標柱を眺めて猪よけの金網塀をくぐって登山道に入る。急な尾根道を登り8:00 三頭山。近くからスキー場勝山のゲレンデが眼下に見える。



越前禅定道図 平泉寺白山神社から市ノ瀬まで



平泉寺境内

さらにしばらく歩くと9:00 立派な中ノ平小屋に着く。ストーブ用の薪が沢山積んであった。そこから古い石畳の道を経てようやく10:10 法恩寺山山頂(1357)に着く。辺りは一面の霧で何も見えないが晴れておれば白山が神々しく見え、禅定道を辿る者の気持ちを高揚させてくれたであろう。しばらく降ると伏拝に至る。白山遥拝所である。ここから昔の禅定道は和佐盛平の方へ下るのであるが、かなり前に廃道になったらしく、ほとんどその入り口はわからない。

経ヶ岳方向への道を辿るが、ほとんど人が通らないようで道も整備されていなく、次第に笹藪が背丈ほども覆いかぶさり平泳ぎをやる要領で笹をかき分けかき分け進む準やぶ漕ぎ状態になる。



準やぶ漕ぎ

12:20 ようやく経ヶ岳分岐の標識に至り、昼食とする。あいかわらず周辺はガス模様で遠くの景色は見えない。13:00 大舟山へ向けて出発。尾根歩きで足元は30~40cmほどの低灌木ながらほとんど道はわからず、足の速いリーダーのYさんの後姿を追いながらの下り。そのうちまた背丈を越す木々のため、やぶ漕ぎに近い歩きになり、道が分からなくなってしばらく迷ったり、道が泥沼で

埋まってやぶ漕ぎ迂回をしなければならなくなったりで大変な時間がかかった。14:30 大舟山、さらに登りを経てようやく16:15 赤兎山への登山路に合流した時はほっとした。伏拝みから昼食休憩を除いて5時間の準やぶ漕ぎ道であった。Yさんの話では以前に来た時はこれほどひどくはなく、もっと歩きやすかったそうである。この後の山道はこれまでと比べれば天国のようなもので、16:50 小原峠に着く。ここには古い祠があり、ここが禅定道であったことを物語っている。小原峠を下ることしばらく、立派な祠「川上御前社」が復元されている。



川上御前社

祠には泰澄大師が白山の帰路、山頂で拝顔した女神を自ら彫ったといわれる女神像(複製)が安置されているという。谷間の道が薄暗くなりかける17:35 三谷登山口によりやく到着。今日の長い山歩きは終わった。しかし、これから平泉寺まで来車を回収に行かねばならない。薄暗くなりかけた未舗装林道を車で下って白峰・谷峠・平泉寺まで1時間余。車を回収して白山比咩神社に着いたのは20時もかなり過ぎていた。

今回の伏拝から経ヶ岳分岐・大舟山を経て赤兎登山路に至るルートは、経験もあり超人的な感覚の持ち主のYさんがおられたから踏破可能であったわけで、安易に足を踏み入れる場所ではない。大変な山行となったが、めったに経験することができない貴重な体験ともいえ、疲れた身体に満足感が残った。

(参考にした文献)

- ・下出積香與：「白山の歴史」北国新聞社刊。
- ・石川県自然保護センター：「白山の禅定道」(白山の自然誌21)